

ふじがわ

町のメモ

昭和61年3月1日現在	
人口	16,928人
増減	-12人
男	8,346人
女	8,582人
世帯数	4,395世帯
面積	31.09km ²

富士川町 総務課

3月号 昭和61年3月5日発行 No.296



思い出多き
中学校生活

(第一中学校3年生)

町のことしの目標
「健康な心とからだに住みよい町に」

おもな内容

2~3ページ	21世紀に向けての町づくり
4~5	町民の声「あすの町づくりに向けて」
6~7	町のわだい……郷土出身の画人神戸麗山展が盛大に
8~9	広報ディスカッション
10~11	ママさん記者が取材中「富士川町纏会」
12	戸籍の窓、一里塚、俳句会

富士川町民憲章

1. わたくしたちは、富士川町民としての自覚をもって郷土のためにつくしましょう。
1. わたくしたちは、心身をきたえ、仕事にはげんで豊かな町にいたしましょう。
1. わたくしたちは、教養を高め、情操を深めて明るい家庭をきずきましょう。
1. わたくしたちは、奉仕につとめ、力をあわせて住みよい社会をつくりましょう。
1. わたくしたちは、創造と努力によって町の未来をひらきましょう。

21世紀に向けての まちづくり



きたるべき二十一世紀を展望し、昭和61年から70年までの10年間、「町の進めべき方向の基本的な方針や施策の大綱を定めた『富士川町第三次総合計画基本構想』が、昨年12月開会された定例会で可決されました。今年4月から、この構想にそったあすの町づくりがスタートします。今月号の広報では、基本構想のあらましをみなさんにお知らせします。

内面充実の基調を受けて、具体的な町づくりのテーマを次の三点としました。

- ①住みよい町をつくる
- ②働きがいのある町をつくる
- ③誇りをもてる町をつくる

この計画づくりにおいて実施した住民意識調査でも、町の進むべき方向として、ここに述べられている町づくりが、強くでてきています。

このように普遍的な課題を、あえてあげたのは、町民のみなさんの力と歴史に育くまれ、培かれた資源を再発見し「富士川町に住んでいて良かった」と思われる町づくりを目標としているからです。

緑とは、緑にまつまられた住みよい町づくりを旨とする。自然環境と調和し、バランスある農業振興を図り、緑にまつまられた潤いある住宅環境の基礎づくりを意味しています。

碧とは、富士川の流れを象徴としてとらえ、より身近に引き寄せることで、歴史文化の再成と町のコミュニティ・ニールベルトゾーンの形成を意図しました。

光とは、商工再整備による、活力ある町づくりを旨とし、町の顔づくりとしての商店街の再整備な工場環境再整備により経済的活力を生み出すことを意味しています。

以上をもとに、「2万人都市富士川を標榜し、住・農・商・工の均整のとれた土地利用空間づくりを旨とする」のです。

ここでは町づくりの視点と主要な施策をあらわしています。

基本構想の施策の大綱の中では、これらを受けて、より具体的に考え方を示していますが、総合計画としては、基本計画及び実施計画が策定され構想が実現化していきます。

この図では、構想についての考え方をお知らせしましたが、今後より具体的な内容をあきらかにして、町民のみなさんと一体となり、計画の実現が図られていきます。

富士川町の総合計画は、目標年における町全体の将来像目標、および、その目標達成のための基本的な施策を明らかにする基本構想、実現可能な実行計画と長期的視野に基づく展望計画をあらわす基本計画、基本計画に定められた事業の具体的なスケジュールを明らかにする実施計画の三つで組み立てられています。

富士川町総合計画とは

策定までの経過

第二次総合計画の策定にあたり、役場内では、助役・収入役・教育長・課長十五人で構成する策定会議や課長補佐・主幹・係長・主査を中心に二十六人で構成する策定部会によって積極性と手づくりの親しみを感じる計画づくりをめざして取り組んできました。

また、町長の諮問機関として第二次総合計画審議会を設置し、昭和59年8月10日、議会議員、各種団体の代表者、その他有識者など三十四人を委員に委嘱して計画案を諮問しました。

この審議会では、生活環境、教育文化・福祉、産業・都市機能、行財政の四部会に別かれ、基本構想や基本計画八項目にわたる原案について、たびかさなる会議を開催し討議した結果、昨年11月養武司会長から常葉雅文町長に答申されました。

この答申を受けた常葉町長は、地方自治法第二条第五項により12月定例会に上程し、議会の慎重な審議を経て賛同を得ました。

計画の基調

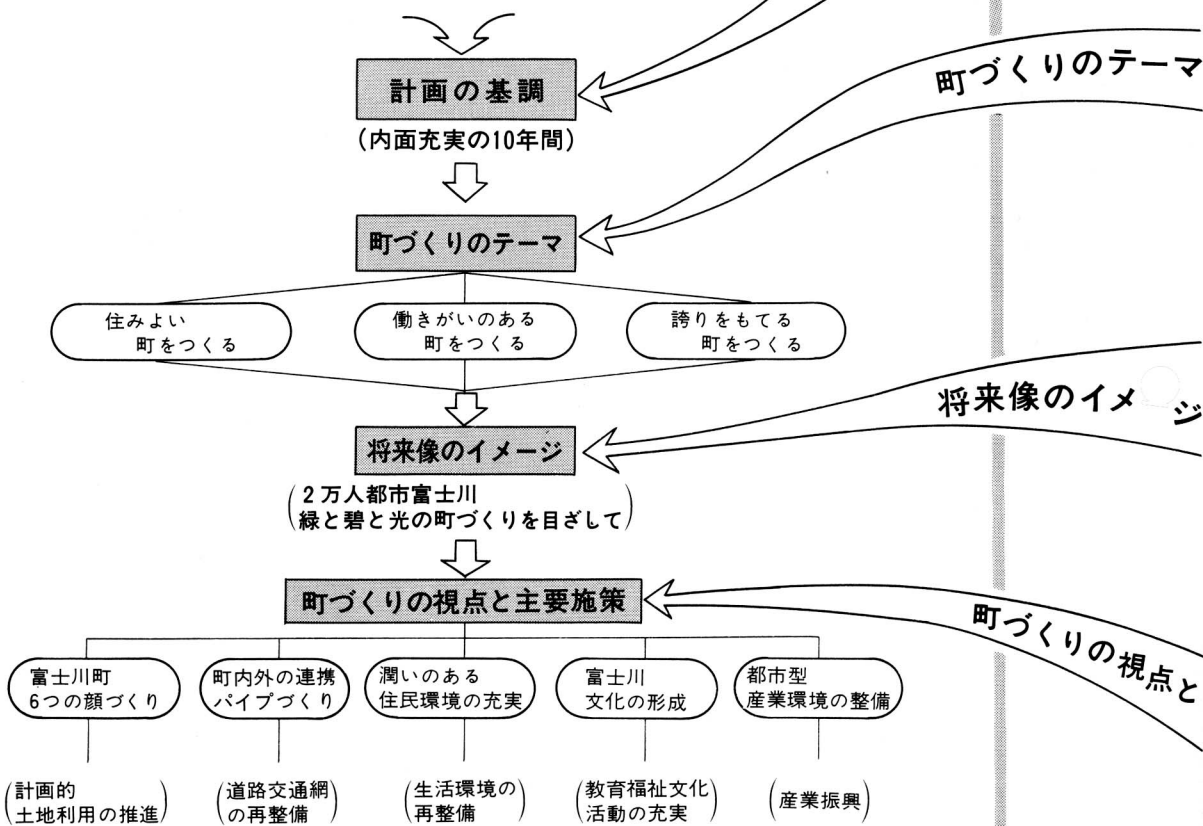
基本構想は昭和70年次を目標としており、今後十年間の町づくりにおける総合的な理念を示しています。

経済の動向、高齢化・情報化への進展の中で、日常生活における心の豊かさを求め、行政や地域づくりへの参加意識の高まりなど多種多様な行政需要や課題を将来にわたって把握した上で、より「ふじかわ」らしさを打ち出せる町づくりを旨とした考え方になっています。

この中で「内面充実の十年間」を基調としているのは、よりソフト面(質的)にウエイトを置いた地域形成の仕組みづくりをテーマとしているからです。

富士川町基本構想

(21世紀に向けてのまちづくり)



町づくりのテーマ

将来像のイメージ

町づくりの視点と主要施策

主要施策

町民の声

あすの町づくりに向けて

前ページで、二十一世紀に向けての昭和61年から十年間の町づくりの基本的な町の考え方を説明させていただきまして、次に、この構想実施にあたり、四人のみなさんから、あすの町づくりについてのご意見をいただきましたので、ご紹介します。

人の住む町 住める町に



天野恵美子さん (45)
(舟山町)

私は、この町が「人の住む町・住める町」として、発展してほしいと思います。

私たちは、いま、高度成長の時代に失ったもの、忘れてしまったものを取り戻す時だと思います。

きれいな空、川の流れ、おいしい水、緑豊かな大地、そこからは葉づけではない作物が恵れ、きれいな川には魚が泳ぎ、山や庭では小鳥の鳴き声が聞こえ、こんな所で子育てをしたい、老後を過ごしたいと思えるような町。



望月富子さん (59)
(八幡町)

カルチャー コミュニティー拠点の 整備促進を

文化の面でも、古い時代からのものが伝えられ、これを傳承していくことが、世代の交流にもなり、新たな文化を生むところとなるような気がします。

これからは、労働時間も短くなる、人びとは余暇を文化的なものに求めてくると思いますが、公民館を中心としたさまざまなグループがありますが、その他に、室野に「陶芸の村」、豊富にある木や草を利用した「木工の村」「染織の村」もよいのではないのでしょうか。

二十一世紀という言葉に、私はあまり良いイメージを持っていません。人間の夢や希望が宇宙へ海洋へと広がっていく中で、私は、あえてこの町を「人の住む町・住める町」にしてほしいと思います。

富士川町は恵まれた自然環境の中で、清水・富士・富士宮市等の市部との近接性もよく、立地条件には優れている。故に周辺地域から住宅立地転居の傾向にあります。

子どもたちも、めまぐるしい生活環境の変化に適應能力を持ち自律性の強い健全でたくましく、けじめのある子どもを育てる環境「子どもの広場」とか、富士川の流れと共に培われてきた当時の歴史・文化を再生する息吹きを強くし、富士川の空間を生かしたり、野間別荘等を活用したカルチャーコミュニティーの拠点の整備促進を希望します。

第二に、社会福祉について、町民が明るく生きがいのある生活を送るための条件整備を希望します。

特に心身・身体障害者については、国・県の各福祉法により

町婦人会「あゆみ」を発売



町婦人会 若月幸江会長 会員一千七百人が、このたび、結成四十周年を記念し、また、昨年が国際婦人年の最終年にあたったことを記念し、最近十年間の活動内容をまとめた「富士川町婦人会史続編十年史「あゆみ」」を発売しました。

このあゆみは、昨年6月から婦人会役員が中心となって編集を進めてきたもので、昭和51年から昨年までの婦人会年表、正副会長経験者の回想、歴代役員、事業計画、消費生活についてや粗大ゴミについてのアンケート調査など、婦人百

少年の部二小A・女子の部一中Aチーム優勝 郡駅伝競走大会

マラソン日和の2月2日、恒例の「第二十回庵原郡駅伝競走大会（庵原郡陸上競技協会主催）」が、由比町の国鉄由比駅前から当町の八坂神社を折り返し、蒲原町役場前までの六区間、十五・七歳のコースで行われました。

この大会は、一般、中学、少年、女子の四部門にわかれて行われ、三十四チーム（一チーム六人）が出場しました。

午前10時、ピストルの合図と同時に由比駅前を一齐にスタートした選手は、ゴールの蒲原町役場前をめざし、応援にかけつけた地域の人たちから盛んな声援をうけて力走しました。

その結果、少年の部で第二小学校Aチームが、また、女子の



渡辺幸一さん (43)
(塚町)

民間の頭脳を活用した プロジェクトチーム等の 発足を

その援護があることは周知のことですが、福祉施設は、年齢や障害の程度により、多岐にわたると思います。ぜひ共、医療や機能回復のための機会をあたえるように、積極的な社会復帰策として、授産施設の確保と設立の促進を希望します。

このたび示された町の基本構想の実施にあたって、私の希望を二・三述べたいと思う。

まず、第一に重点施策として

計画的土地利用をあげているが、土地のスペアール化が進まないうちに、早期に土地利用計画をたて実施に移してほしい。特にそのために、民間の頭脳を活用したプロジェクトチーム等を発足させ、ダイナミックに推進し、活用ある町づくりを旨としてほしい。

第二に、道路の整備にあたっては、特に人優先の視点で計画



錦織孝臣さん (52)
(八幡町)

住宅環境の整備 道路・上水道整備を

を練り、実施に移してもらいたい。産業道路と生活道路を明確に区分し、産業道路においては、輸送の利便性に重きをおき、生活道路においては、車利用の利便性は二の次にしてもよいかから、思いきって歩道部分を広く取り、緑地帯を設けて、人が安全に歩行や散策ができるような街路づくりが望ましい。

最後になりましたが、人優先、内面充実の基本理念をすべての計画に反映させ、実施にあたっては、これを実践し、町民と英知を出しあいながら、二十一世紀を展望した特色ある町づくりを進めてほしいと思う。

豊かな人間性を育て、住みよい町づくりを旨とする施策を重点施策として取り上げていただきたいと思います。

まず、第一に地区住民がそれぞれ自主的計画により、交互に

施設を利用しコミュニティー活動ができるような広場と施設をかねたコミュニティー拠点施設の確保と整備を希望します。

第二に、住宅環境の整備、特に道路及び下水道整備を希望します。

近年、当町も地域差はありますが、住宅が顕著に増加しており、二万人都市をめざす現在、農業用水路と生活污水が混流し、水路の汚れは目をみはるものがあります。

現在の住宅建築ではトイレの浄化槽設備は常識とされておりますが、農業用水路等の汚れを見るかぎり、この排水路の整備は急務であると思えます。

また、道路は年々整備されてきていますが、バイパスの早期完成と既設県道の歩・車道の区分整備を図っていくことも大切なことです。道路整備により、当町での交通事故発生も減少するでしょうし、富士川地区と松野地区の交流がより一層図られ、全町の連帯意識がより高まると思われます。

二十一世紀に向けた町づくりにあたり、以上の二点について配慮されますよう要望いたします。



部で第一中学校Aチームが優勝するなど、当町から出場したチームは大健闘しました。

当町から出場し、入賞したチームは次のとおりです。

○中学の部
二位 一中Aチーム

○少年の部
優勝 二小Aチーム
三位 一小チーム

○女子の部
優勝 一中Aチーム
二位 二中チーム
三位 一中Bチーム

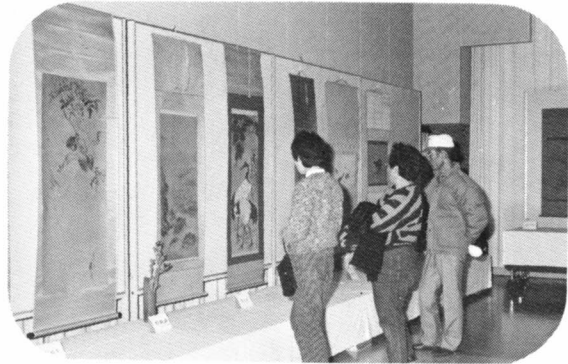
青少年健全育成標語（三年生の部）

- 青空に負けぬ心を持つ努力 (一中三年A組 林 勝司)
- みつめよう自分の行動の瞬間 (一中三年B組 天野 晴代)
- 一生の進路をとるのは君の心のハンドルしだい (一中三年C組 佐藤 篤)
- 気をつけよういつもの態度と違う時 (二中三年C組 赤堀 悦子)
- みんなの手で開けてあげよう孤独の扉 (一中三年D組 大久保浩文)
- 正しいおこない一度の青春 (二中三年A組 矢部 晃生)
- あなたの心の窓私にも見せてください (二中三年A組 佐野 陽子)
- その一步非行の道に入りこむ (二中三年B組 石川 友紀)
- それだ道心のネジのしめ忘れ (二中三年B組 川口 徹)
- 考えよう自分の将来自分の道 (二中三年C組 石川 定吾)
- うわついたあなたの心がねらわれる (二中三年C組 土田 悦子)

郷土出身の画人

神戸麗山展が盛大に

北松野出身で江戸時代の後期に活躍した画人「神戸麗山」の作品展が2月7日から9日までの三日間、中央公民館多目的室で開催され、町内・外から約七百人の見学者が訪ずれ大にぎわいでした。



作品に見入る見学者

同展には町内の所蔵家の協力によって、麗山の得意とする富嶽や龍虎などの掛け軸やびょうぶなど約四十点と共に、天覧の印章が展示されました。見学者は「神戸麗山という画家の名前は知っていましたが、直接このようにたくさん作品を見たのははじめてでした。立派な作品ばかりで感心しました。今回の企画は、町の文化を見直す上でも価値があったと思います。企画される方も大切な作品をおあずかりするので大変だったと思います。これからのような作品展をぜひ続けてほしいですね」と感想を話していました。

わだ

お年寄りの指導で 手打ちうどん作りを楽しむ

2月9日宇多利児童館で、また、2月11日松野児童館（望月富子館長）で、地元老人クラブのお年寄りの指導による「手打ちうどん作り」が行われました。このうどん作りは、お年寄りの熟練した指導による昔ながらの手打ちの技術を、お母さんと子どもたちに習得してもらい、三世代の交流をより深めてもらうという目的で計画され、地元老人クラブの協力で行われました。



お年寄りの指導でうどん作りを楽しむこともたち（写真上宇多利児童館・下松野児童館）

両会場に参加した約百人の親子は、手を小麦粉でまっ白にしながらねり作業などに挑戦し、作業終了後は、全員でつくりたてのおいしいうどんをいただきました。

上町小山線 吉津川橋完成



公共上町小山線道路改良工事に伴い、昨年7月から約三千六百万円の工事費で建設を進めてきた「吉津川橋」がこのたび完成しました。この橋は、一級河川吉津川に架り、延長十二・五メートル、幅九・七五メートル、二メートルの歩道を併設しています。同橋の完成により、橋付近の通行はスムーズになり、緊急輸送路としての役割が一段と高まってきました。

町の

まきの木大学 一年間の学習成果を披露

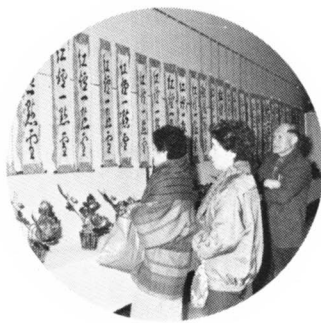
2月18日午前9時からまきの木大学（大学生三百四十人）の「学習発表会」が、中央公民館のホールや多目的室で盛大に行われました。

この大学は、公民館が社会教育活動の一環として、お年寄りが、健康をたしかめあいながら趣味を生かし、学習を通してより教養を高めてもらうことなどを目的として開設しているもので、大学生は、舞踊、盆栽、短歌など十クラブで毎月学習活動を行っています。

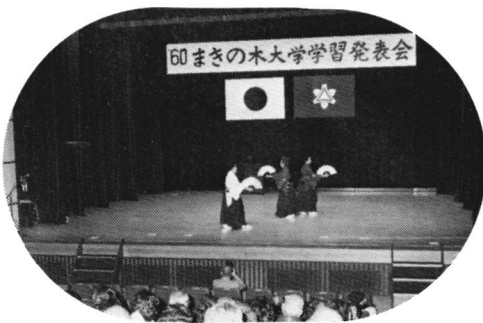
当日、ホールでは詩吟、民謡などが披露され、また、多目的室では、書道、華道、短歌など約百五十点の作品が展示され、一年間の学習成果の発表をしながら楽しい一日をすごしました。



熱心に聞きいる学級生



日ごろの勉強ぶりを披露



昭和60年 蒲原警察署管内の交通事故発生状況

Table showing traffic accident statistics for Shouwa 60, categorized by location (National Route 1, etc.) and type of accident (Fatal, Injury, Property Damage).

Table showing traffic accident statistics by road type (National Route, Prefectural Road, etc.) and location (Municipal, Other).

Table showing traffic accident statistics by accident type (Pedestrian, Bicycle, Motorcycle, etc.) and age group (Child, Adult, Elderly).

注：()は前年の数字

3月号のテーマ

学生時代の思い出

提言者 市川康孝さん(37)(宮町)



野山で遊んだこと

大北町 庄司寿男さん(39)

私の小学校高学年時代には、学校行事のなかに落穂拾いとイナゴ取りがあり、10月から11月末頃まで毎日放課後、家に帰る間に拾って帰り、次の日学校にもっていき、先生が計測してグラフに記入し、最後に一番頑張った人は、学校から賞状と賞品がもらえました。賞品がほしかったために、わざとぬれた稲を入れたり、袋のスミに土を入れたりカエルを入れたりと。ひろわずにいらずらくふうしましたが、先生にわかってしまったら、

野に山にめいっばいかけまわって遊んだことだけがなつかしく思い出されます。今の子どもたちも外で力いっぱい遊んでほしいものです。

寮生活の思い出

小山 植松博文さん(32)

幼・小・中・高専時代、それぞれの思い出の中でも中学卒業後、親元を離れて寮で生活した高専時代が、最も充実し、思い出多き時代だったと思っています。他人の雑音が気になって、勉

寮生活に入り、しばらくの間は生活に慣れるのに夢中でしたが、徐々にホームシックにかかり、家に帰りたくてどうしようもなかったこと。家では一人部屋で、静かに勉強できたのに四人部屋になり、他人の雑音が気になって、勉

高校生活

四十九町 入澤由美子さん(44)

「学生時代」その言葉はあまりにも懐かしい響きで三十年前私を甦らせてくれます。三十年前、家庭の事情で高校進学を諦め、暗い中学生でしたが、思いがけなく特待生試験を受けられることになり、英数・国の筆記試験と面接の結果、無事合格し、進学できた時のあの喜びは一生忘れられません。腕時計も無く、学用品以外はほとんど買えない高校時代でしたが、境遇の同じ友やサークル活動での良い友に恵まれ、貧しくても楽しい三年間でした。月謝を免除された代わりに教務、図書、保健の中、いずれかの仕事に義務付けられていたが、それさえ、張りあいを持ってたほどでした。

当時の日記を見ますと、毎日書かずにはいられない程、心に溢れる物があり、本もたくさん読んで充実していた高校生活が思われます。三十年前のあの純粋だった自分が懐かしく、怠惰になりがちな現在の自分が反省させられます。学生時代の日記は、思い出と共に私の大切な宝物です。

映画に夢見た青春時代

堺町 若松幸子さん(38)

紅葉が美しい宝塚に近い女子ばかりの学園でした。近くには宝塚歌劇があり、友だちの中にも熱狂的なファンが数多くいました。そんな中で、仲の良かった友だち同志集まれば夢中になったのが、映画です。「映画鑑賞クラブ」と銘うって、大学ノートに題名、主演者、あらすじ、感想、ランクづけまでびっしり書きこ

なことを思い出させてくれます。やつと子育てから手を離れるようになりましたが、私の趣味として、これからも映画を見つづけていきたいと思っています。そんな時、私の青春時代は、いつまでもつづいていくのでした。夢見ていたのかも知れません。その仲間から時々電話があります。話題はやはり、最近の映画やテレビ名画座の内容になってしまっています。映画は、学生時代のいろいろ

幸福な中学時代

南町二 望月宏美さん(34)

私は富士宮に生まれ、中学は一中へ進むはずでしたが、父のすすめで富士見中へ申し込み、富士宮から二人でした。電車通は朝忙しく母が大変でした。五十人応募したところ二十八人しか生徒がなくて、一クラス少数で、先生もよく見てくれ、幸福な中学時代でした。修学旅行も三年生と一緒に二年の時いききました。二泊三日で奈良・京都方面へ行き、夜行列車で、しかも鈍行でした。一泊目は旅館へ泊まりましたが、二泊目は電車

の中でゴザをひいてぎこ寝でした。ゴットンゴットン動くたびに床で身体が痛くてなかなか眠れず、先生が見廻りにきた時は眠ったふりをして長い道のりを電車の中で過ごし、楽しかった京都の旅を走馬灯のように思い浮かべて過ごした思い出があります。私たちの制服はセーラー服で上下の寸法がきちんとまわって、また、作法と道徳が特に厳しく、教室もいつもきれいな状態でした。思い出すと良い経験でした。

みちくさ

相生町 渡辺なを子さん(40)

「ただいま」「お帰らない遅かったのね」「ちよっと違う道を通ってきたからね」「そう、何かいいもの見つけたの……」小学生の頃、私もよくみちく

さをして帰ったつけ……。話が進み、途中でサヨナラをするのももったいなくて遠回りしたり、友だちの家を知りたくて一緒にいたり、校門の角から蹴り始めた石が、よその家の庭に入り、そのゆくえが気になって垣根の上から覗いたり……そ

どじょうと葉びん

相生町 森 孝雄さん(68)

それは、尋常高等小学校の高等一年生の時でした。(今の中学一年生) おばあさんの葉を町の病院から貰ってくる用事を頼まれて、その葉をコルクの栓をしてカバンへ入れたまでは良かった。帰り道、友だちが田んぼで、どじょうを取っているのを見て、葉のことはつい忘れてしまい、どじょう取りに夢中になってしまいました。その時は特にたくさん取れて、意気揚々と家に帰りました。帰って葉のことをいわれて、カバンから出してビック

り、コルクの栓がとれて、びんの中身は空っぽ……。どうやら暴れたためにこんなことになったようです。子どもながら困り顔の私に、おばあさんの言葉、コンダツカラ、コンナコト、シンナヨ、つまり、今日は仕方ないけれど、次はこのようなことをするではないよ……。あれが愛の言葉、歳が重なるにつれ孫もできて、用事を頼むたびにこのことを思い出す。あの時のおばあさんのように、私も孫が可愛い。その時のおばあさんの愛の言葉、それがだんだんわかってくる今日この頃です。

うあの石は、どうなったのかしら。みちくさってとても楽しい。いつも何かしらありそうで、家に帰れば叱られることはわかっています……。嫌なことはみんな忘れてしまったけれど、学校帰りのみちくさは、幼き日の思い出です。

誰れしも健康であることを願わない人はいません。ことに、病気にでもなったりすると、その思いは一層強くなります。

私の健康法

4月号のテーマ

私は、十代の頃は健康だけが取りえだったし、二十代になると結婚、出産、育児とめまぐるしい毎日、自分の体について考える余裕がありませんでした。三十代になって子育てもようやく一段落した途端、体の調子が悪くなり、病院にかかったり、健康に自信がもてなくなりました。自分の体は自分で守るしかないと思うようになったのは、その頃からです。

やはり、健康の基本は食事と運動なので、食事には、栄養のバランス、繊維質の多い物、食べ過ぎないことなどに気をつけたり、手軽にできる



深沢のり子さん(35)(南町二)

投稿者へ

- ◎4月号のテーマ 「私の健康法」
- ◎字数 400字づつ原稿用紙一枚以内
- ◎締切日 3月17日(月)まで
- ◎投稿先・問合せ 富士川町役場総務課 岩淵刈番地
- ◎注意事項 匿名者の原稿は掲載しませんから、必ず住所・氏名・年齢を記入して、締切日までに投稿してください。

ママさん記者が取材中



「富士川町纏会」

火災記事が新聞を賑わし、乾燥した天気が続く2月10日(月)、消防団の第一線で活躍され、退団後、いまなお後輩の育成に力を注がれている「富士川町纏会」の会長柳下寿男さん(相生町)、庶務会計佐野正豊さん(南町二)を役場にお招きし、纏会のおい

たちや活動内容などについて、お話をうかがいました。
纏会は、消防団長、副団長、分団長などの経験者三十五人で現在構成されています。
この会の発足は、昭和31年9月、当時の庵原郡十二町村と清水市で、清庵纏会としてスタート



写真左から佐野さん、柳下さんインタビューする広報モニター

り、各市町村の纏会のみならず、纏をふりまわして練り歩いたり、火渡りを行うなど豪快な祭りです。この時使用される纏は、普段神社の纏殿に奉納されています。これは、昭和14年、それまで火災現場で活躍していた纏が団旗に変わったため、長く大切に保存していることになったためです。町のものは、旧富士川町と松野村の

トしましたが、当町の会の組織は具体的にできていなかったため、36年1月15日に、消防団殉職者の慰霊、消防の象徴である纏を長く後世に伝えていきたい、現職の消防団員のみならずを励まし親睦を深めていきたいなどという目的から、故丸山彦之助さん(相生町)を中心に、清庵纏会の下部組織として発足しました。
主な一年間の行事は、正月の出初め式への参列、3月の総会と視察研修、年二回開催される清庵支部総会への出席、そして一年を締め括る大きな行事として清水市秋葉神社で行われる纏祭りに参加することです。この祭りは、各市町村の纏会のみならず、纏をふりまわして練り歩いたり、火渡りを行うなど豪快な祭りです。この時使用される纏は、普段神社の纏殿に奉納されています。これは、昭和14年、それまで火災現場で活躍していた纏が団旗に変わったため、長く大切に保存していることになったためです。町のものは、旧富士川町と松野村の

二本奉納してあります。この纏も老朽化が激しいため、祭りの当日は振ることができませんので、昨年、会結成三十周年を記念し、多数の人の好意により二十三万円で新調しました。その他各区で行われる防災訓練にも積極的に参加し、現役時代に経験した貴重な体験をもとに指導されています。
最後に「風の強い日などは、火事が起きなければ良いがと心配し、朝まで寝むられないこともある」というお話を聞いて、私たち一人ひとりが、火の用心を心がけ、火災を起こさないように気をつけなければと強く心に感じました。
(広報モニター植松智子)

▽社会教育あれこれ△ "もう"と"まだ"

一月行く月、二月逃げる月、三月去る月と昔からいわれ、新年を迎え、春四月を待つこの三か月はなぜか速く過ぎてしまう。単なる気持ちの問題なのだが本当に速いのである。一年中で最も寒いこの時期人は背を丸め挨拶といえ、"寒いですね"ぐらいで外出を控えじつと暖かい春を待つ心がそうさせるのである。か。それとも、年度末という年の瀬とは違った期待と不安の入り混じった気ぜわしさがそうさせるのであろうか。
しかし、考えてみるとこの三か月の経つのが速いと思うのはおとなたちばかりかもしれない。事務整理や準備に追われ、また子どもたちの卒業や入学への準備等に腐心するばかりで、いっこうに実のあがらぬことに苛立ちを覚えながら気がつく"もう"三月の終りなのである。
ところが、子どもたちはというと親の苦労をよそに勉強や仕事に対する一抹の不安を

与太夫屋敷

町の昔ばなし伝説(七)

錦織与太夫という人は、戦国時代から代々南松野の氏神八幡宮の神主をした家柄の人です。
いつの頃に土着したのかはわかりませんが、代々、与太夫を名のついていたそうです。今は本家は絶家してありません。絶家したのは明治か大正の頃だと思います。最後の当主だった与太夫さんは、一人娘に先立たれ、その上、妻にも死別してしまつたため、松野で生活するのが嫌になり、上京してさるお屋敷に雑役として住みこみました。毎朝、ご主人の洗顔の水を差し出すのが勤めでした。ところが与太夫さんが洗面器に水を汲んで差し出すと、その水で顔を洗うご主人は、水に写る顔が自分の顔ではなく、厳しい装束をした武将が映るのでした。不思議に思ったご主人は与太夫さんと呼んで聞いてみようと、与太夫さんが由緒ある家柄の人だとわかりました。それから与太夫さんは、そのお屋敷で重く用いられたそうです。

家族で話し合おう
点検・整備で
安全な"自転車ライフ"を

ブレーキが利かずに、壁に激突——こんなことにならないよう、自転車の点検・整備は忘れなようにしましょう。点検は次のような要領でやりましょう。
●サドル——しっかりと固定されているか。高さは、両足先が軽く地面にとどき、ハンドルを握ったとき、上体が少し前に傾くように調整されているか。
●ハンドル——前輪と直角に固定されているか。
●ブレーキ——前後ともよく利くか。
●チェーン——ゆるすぎないか。
●タイヤ——空気が入っているか。すりへっていないか。
●ペダル——曲がっていないか。

●ライト——明るくつくか。反射器や反射テープは、明るく反射するか。
●自転車には、自動車のような「車検制度」がないので、つい点検を忘れがち。自転車で乗る前には必ず点検し、悪い箇所はすぐ整備しよう。自分でできない時は、自転車安全整備店で整備してもらおう。思わぬ事故を防ぐためにも、点検表を作り、安全な"自転車ライフ"を楽しみましょう。

点検月日		
こと		
ハンドル		
ブレーキ		
サドル		
タイヤ		
ペダル		
チェーン		
ベル・ブザー		
ライト		



2月の交通事故

人身事故	物損事故	合計
4件(9)	2件(6)	6件(15)
富士川身延線	1件(3)	
国道一号线	3件(6)	
町道	1件(4)	
県道	1件(2)	
その他	0件(0)	

()は昨年

屋敷の子



昔の与太夫さんについて
松野は大昔から水の不自由な所で、田んぼはあつても水がなく、このため水争いの絶えないうちには、農民は大層苦労しました。その上、力の強い人たちは、自分たちに都合のいいような水の配分をしていたので新しい水田の開発は困難でした。原方の皿山付近(現在の中学校付近)の土地は肥沃な土地ですが、水がないため、水田にはなりません。これを見かねた与太夫さんは、大勢の人夫を動員して、血汗から水路を作り、十一町歩の土地を漑水して豊かな水田としました。
馬上豊かに作業の指導をとつた与太夫さんには、誰れも文句をいう者はなく、その勇気のある行動と力強い姿は、永く語り継がれたそうです。
与太夫さんの屋敷は、原方のウワモリで小高い丘になっていました。今は雑木林と茶畑になっていますが、神主とはいえず戦国武士であった与太夫さんは、敵襲に備えての究意な場所でした。

戸籍の窓

S 61・1・15〜2・14届出分

(敬称略)

おめでた

区名 氏名 保護者 続柄
 川坂 塩坂恵理子 浩一郎 二女
 新町本町 清水裕佳子 十三昭 //

かなしみ

区名	氏名	年齢
相生町	望月敏光	四〇
新町本町	若月ロク	八六
宮町	市川政利	六一
幸町	齋藤きま	七六
//	望月芳子	七八
//	中村泰一	七六
東町二	望月はほ	九〇
南町二	小林かね	七三
富士見町	小泉利治	四七
富士松野	太田忠子	八二

一里塚



初めてこの町へ来たのは、私が小学生の頃祖父の知人を訪ねた時で、岩淵という駅名であった。それから、十数年経て富士へ通勤を始めた時には、富士川駅に変わっていた。当初は国道一号线で通っていたが、富士川橋の混雑はひどいもので、よく野間別荘の石塀のあたりまで渋滞していたものであった。現在でも混雑は変わっていないが、石塀はネットフェンスに変わり、その前にはすばらしい近代的な中央公民館が建設されている。

中央公民館から見る富士山の景色は、富士川の松と相俟って

特にすばらしく、絵になる風景である。この風景を大切にし、より多くの人の心の中に残すには、まだ何か物足りなさを少し感じる。

蒲原の町の中を車で走ると、昔の街道のような町並とそれを利用していた昔の人々の生活が感じられる。広重が描いた五十三次の中に人が生きているように、富士川町という絵の中にもそのような姿が欲しい。

町は近代的な姿に変化しつつある今、富士川を愛し、利用し、生活の場として求めている当時の人々の生活を感じる事ができる絵が欲しいと思う。すばらしい風景には、過去、現在、未来を通して生活する人々の生命が入ってくると思う。(T・K)

お母さんの知恵袋

日本人の食生活は戦後欧米化が進み、肉類からの脂肪摂取量が増加しています。それにともない動物性脂肪の摂りすぎによる成人病が問題視されるようになり、日本型食生活こそ理想食として魚が見直されてきました。魚の脂肪にはEPAやDHAが含まれていて、これらが成人病を予防する上で重要な働きをするといわれています。

EPAとは、イワシ、サバ、サンマなどの背の青い魚に多く含まれる不飽和脂肪酸の一つです。EPAが注目されるようになったのは、エスキモー人に血栓ができていく心筋硬塞や脳硬塞が少ないのは、EPAを多く含むアザラシや魚を主食とする食事をするためという事が明らかにされたためです。EPAの作用として、心筋硬塞や脳硬塞の原因となる血中の中性脂肪やコレステロールを減らし、血栓を予防する事などが知られています。DHAもEPAと同様の作用を持つといわれています。食事に積極的に魚料理を取り入れるようにしましょう。(婦人会)

俳句会

〈文協俳句会〉

宮町 増井 冬木
梅咲くや合格祈願ふ給馬が飛ぶ
吹き売りのうぐいす笛も旅の句に

大北町 天野 たま

寄鍋の火をとめて尚にぎやかに

南町二 法月 幸子

雲まとひ易き山の陽寒ざくら

南町一 影島 智子

ころころと売り値の変わるだるま市

南町一 田辺つぎ子

鳴りひびく太鼓にももの芽の動く

清水町 宇佐美裕子

寂光に梅ヶ香を張る樵道

南町一 望月 洋子

涅槃会の金泥錆ぶる大襖

旭町 笠井みち子

化粧知らぬ顔に粉雪ふりかかる

南町一 上野みつ子

草焼くや絶壁添ひの牧の棚

南町一 上野 君江

露のとう前掛に滴み溢れけり

南町一 宇佐美幸子

毛糸帽ふかぶかパートに通ひけり